



令和5年度 兵庫県立大学 生涯学習公開講座

【山陰海岸ジオパークと但馬： 豊かな自然と人々の暮らし】

日時：第1回 6月4日（日）、第2回 6月17日（土）、第3回 6月18日（日）、
第4回 10月8日（日）第5回 11月12日（日）、第6回 11月26日（日）
（いずれも10時～12時、13時～16時（ただし第5回は悪天のため午前中のみ）

受講者数：第1回 3名、第2回 16名、第3回 11名、第4回 11名、第5回 7名、
第6回 9名、計57名

会場：第1回 豊岡市内竹野シュノーケルセンター・同市内、第2回 豊岡市出石、
第3回 豊岡市城崎・玄武洞公園、第4回 京丹後市丹後支所・同市内、
第5回 鳥取市青谷町コミュニティセンター・鳥取市内、
第6回 姫路市書寫山圓教寺

講師：教授 川村教一、講師 松原典孝、講師 佐野恭平

○テーマ・概要

第1回：日本海ってどうやってできたん？

第2回：出石焼—地の恵みの白磁—

第3回：玄武洞と知の巨人—柴野栗山と小藤文次郎

第4回：地質図ってどうやって作るん？～20万分の1地質図「宮津」～ を見てみよう

第5回：ちょっと不思議な青谷の溶岩 そのナゾに迫る

第6回：秋の書寫山圓教寺を歩く：歴史とジオ探訪

○内 容

第1回：日本海ってどうやってできたん？

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークのメインテーマである日本海の拡大。実際にどこでどのような証拠を見ることができるのかを竹野海岸周辺を例に探りました。

第2回：出石焼—地の恵みの白磁—

但馬の城下町、出石を散策しながら、鉱石が出石焼の製品になるまでのプロセス、また江戸時代以降の出石焼発展のストーリーをたどりしました。

第3回：玄武洞と知の巨人—柴野栗山と小藤文次郎

江戸幕府の儒学者、柴野栗山が「玄武洞」を名付けました。また、「柱形石」と呼ばれた岩石は、明治時代に小藤文次郎が「玄武岩」と命名しました。城崎温泉街と玄武洞を散策しながら、これらの命名の経緯をたどりしました。

第4回：地質図ってどうやって作るん？～20万分の1地質図「宮津」～ を見てみよう
ジオパークにおいて重要な情報の一つである「地質図」。地表のどこにどのような種類の地質が分布しているかを示すこの地図はどうやって作られたのか？20万分の1地質図「宮津」作成に携わった産総研辻野氏をゲストスピーカーに、作成秘話を伺うと共に現場での様子を観察しました。

第5回：ちょっと不思議な青谷の溶岩 そのナゾに迫る
山陰海岸ジオパークエリアである鳥取市青谷地域の溶岩は、実は少し変わった成り立ちの溶岩です。青谷で見られる溶岩をテーマに、それらを生み出した火山噴火のナゾに迫りました。

第6回：秋の書寫山圓教寺を歩く：歴史とジオ探訪
兵庫県姫路市の名刹、圓教寺に奉納・建立された各種石造物を、歴史・文化地質研究者と一緒に境内を歩きながら見てまわりました。あわせて、播磨やその周辺で用いられた中世・近世における石材も紹介しました。

第3回：玄武洞と知の巨人―柴野栗山と小藤文次郎



玄武洞を観察しながら解説を聴く参加者

第4回：地質図ってどうやって作るん？ ～20万分の1地質図「宮津」～ を見てみよう



地層観察を行う参加者